

心にとどけ！

太鼓の響き

城西川越和太鼓「櫂」^{けやき}は、城西川越中学校と城西大学付属川越高等学校の生徒会役員と有志の皆さんで、平成十七年六月に結成。昨年十一月に鶴ヶ島市^{つるがしま}で行われた埼玉県高校文化連盟郷土芸能祭で優勝し、ことし八月、島根県で行われた全国高等学校総合文化祭に出場を果たしました。



ことしの百万灯夏まつりでは注目を集めました



8月に島根県で行われた、全国高等学校総合文化祭の様子（同校提供）

夏休みなどには日曜日を除き毎日行っています。時間が短い分、集中力を持続させ、仲間どうしで切さたく磨し合い、内容の濃い練習を行っています。また、二か月に一度、専門の講師の下で練習を重ね、二か月後までに講師から出された課題を克服しておきます。「全国大会へ出場できるまで実力が伸びたのは、生徒の意識の高さです。自分に自信のない太鼓

中学生十三人・高校生十八人の三十一人で活動している「櫂」。人が見て記憶に残るような活動を行うおうと、同校生徒会と有志により太鼓の演奏を始めました。当初、顧問の高柳康雄先生^{たかやなぎやすお}（49歳）を含め太鼓の経験者は一人もいませんでした。そのため、県内の太鼓演奏で実力のある学校へ、太鼓の打ち方などの指導を受けに行きました。

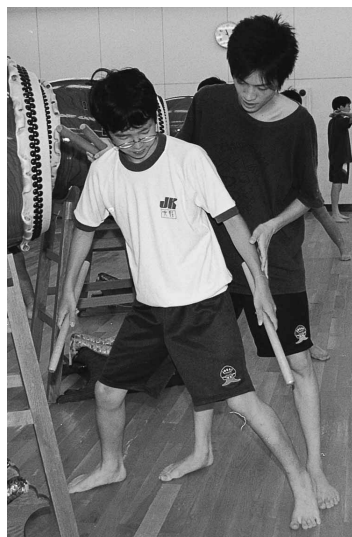
練習は、平日で週二、三日、放課後に三時間ほど、

の演奏を見せることは、失礼だとみんなが思っています」と目を細めながら話す高柳先生。

「櫂」の特徴は、男子ならではの力強さとスピード感のある演奏です。ほかの高校では、尺八などの楽器を太鼓演奏の中に取り入れて多彩な演奏をしています。が「櫂」は太鼓のみ。一糸乱れぬばちさばきと太鼓の響きだけで、聴衆の心を揺さぶる演奏を目指しています。一方、地域にも目を向けて、地域の催しなどへ積極的に参加しています。昨年は、特別養護老人ホーム・養護学校・市内の祭りなど二十四回、ことしもすでに十五回太鼓の演奏をしています。

「多くの人に喜んでいただき、拍手をもらえると、きほともうれしく、自信につながります」と「櫂」の皆さん。

目標は、「来年も全国大会へ出場すること。今度は、全国大会で賞をとりたいと思います」と代表の山口拓真さん^{やまぐちたくま}（16歳・笠幡^{かさわた}）は力強く話してくれました。



上級生から構え方について指導を受ける下級生



特別養護老人ホームの納涼祭に出演する「櫂」の皆さん

2基のみこしでわっしょい！

8月4日、^{まよば}的場1丁目自治会の夏祭りが行われました。50人近くの子どもたちが2基の子どもみこしをかついで、「わっしょい、わっしょい」と声を出し、町内を練り歩きました。的場たぬき山公園をスタート。およそ1時間でつつじ通り商店街に到着し、ちょっとひと休み。休憩を終えると、元気よくゴールの的場たぬき山公園を目指して行きました。



この日は暑く、汗をぬぐいながらかつぎました



休憩を終え、いざ、出発！



いろいろな生地をきれいに組み合わせて作ります

くふうがいっぱい

8月23日に大東南公民館で、不要なネクタイなどからベストを作る「^{ソーイング}創ingリフォーム講座Ⅱ」が行われました。「使われなくなった衣類がほかの物に生まれ変わるので楽しい」と参加者の高橋幸子さん（59歳・^{いまふく}今福）。皆さんは、作り方を講師や参加者どうしで相談しながら、時間を忘れるかのように熱心に作っていました。

夏の夜空に大輪が咲く

^{あいな}安比奈親水公園で8月24日に、川越城築城550年・市制施行85周年記念第18回小江戸川越花火大会が行われました。花火の打ち上げ前には、和太鼓の演奏などが行われ大会をいっそう盛り上げました。台風で1度中止された花火大会でしたが、再開された当日は、約14万人の皆さんが訪れ、夏の夜空を彩る華麗な花火に酔いしれました。



花火の点火式



在日各国大使館の関係者などを呼び、川越の魅力を伝えていきたいですね」と和田さんは話していました。

「これからは、外交官として培った幅広いネットワークを生かして、川越まつりなどのときに、出身は高知市で、昭和四十五年に川越に移り住みました。川越市に霞ヶ関という地名があることを知り、勤めていた外務省も東京の霞ヶ関にあったため面白いなと思い決めたそうです。趣味は写真撮影。数々の写真展に出品しています。昨年のスマイルシティ・川越フォトコンクールでは、入賞するほどの腕前です。」

出身は高知市で、昭和四十五年に川越に移り住みました。川越市に霞ヶ関という地名があることを知り、勤めていた外務省も東京の霞ヶ関にあったため面白いなと思い決めたそうです。趣味は写真撮影。数々の写真展に出品しています。昨年のスマイルシティ・川越フォトコンクールでは、入賞するほどの腕前です。

出身は高知市で、昭和四十五年に川越に移り住みました。川越市に霞ヶ関という地名があることを知り、勤めていた外務省も東京の霞ヶ関にあったため面白いなと思い決めたそうです。趣味は写真撮影。数々の写真展に出品しています。昨年のスマイルシティ・川越フォトコンクールでは、入賞するほどの腕前です。

和田雅夫さん（75歳・^{かすみ}霞ヶ関東四丁目）

かわごえ 川越 39